

項目		
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	尿路外悪性腫瘍に対する尿路変更と経過観察の転帰に関する検討
	研究目的	様々な悪性腫瘍で腎臓から膀胱までの尿管が圧迫され、通過障害を来す事があり、そのような患者さんに対する治療として、経過観察あるいはカテーテル留置等の侵襲性のある治療を行うという選択があります。しかし、その選択基準は明らかではなく、個々の医師の経験により判断されることが多いようです。より適切な治療選択を可能にするため、どのような病状の時にどのような治療をするのが患者さんにとってメリットがあるか、これまでの治療とその結果を振り返り、検討する事が今回の研究の目的です。
	研究対象者	2011年4月から研究承認までに当院で尿管閉塞をきたし、泌尿器科に併診された患者さん
	研究期間	西暦 2018年 8月 23日 ~ 西暦 2020年 3月 30日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	岸田 健
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	泌尿器科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	県立足柄上病院 泌尿器科 蓼沼知之医師 (現当院非常勤医師)